

産学官連携による教育シンポジウム

「自ら考えてものを創り出すチカラ＝日本の未来を創るチカラ」アンケート集計について

講演にて出てきたキーワードが・・・

「五感(で読書)」・「体験学習」・「意識下」・「主体性」・「自発性」・「人間力」・「情熱」
・「学校教育 800 時間、地域、家庭などの時間 1500 時間」・「アクティブラーニング」
・「面白くなるには“つくる立場”になればいい」・「人生が面白くなったという人を世の中に増やす」
・「ブレインストーミング＝数を出す」・「スポーツ界に学べ＝憧れの見える化」・「社会の過保護化、甘やかし」

皆さん、このキーワードを中心に様々な分野の方の講演でしたが方向性は共通しているとの認識を持たれたようです。

また脳科学の教育へのアプローチに関心を持つ方、ブレインストーミングを取り入れたいと思う方の声が多かったようです。

この会のあった 1 週間後に NHK スペシャルで「ママたちが非常事態！？最新科学で迫るニッポンの子育て」という番組があり、二足歩行をはじめた人類は、四足歩行の動物と異なり、他の動物たちは脳が十分に発達してから生まれるのに対し、人間は狭い産道を通る為、脳が小さい状態(未熟な状態)で生まれ、10 年ぐらいかけてゆっくりと脳が発達するようになったと、ありました。

確かに、こういうことを知っているかいないかで、子どもたちへの接し方も変わってくるかもしれません。

また、この会のことをもっと多くの中学校教師などに知らせて、参加してもらえたら教師の意識改革につながるのではといった意見も。

様々な意見をいただき、今後の参考にさせていただきます。

では、次頁より詳細をご覧ください。

公益社団法人 日本広告制作協会

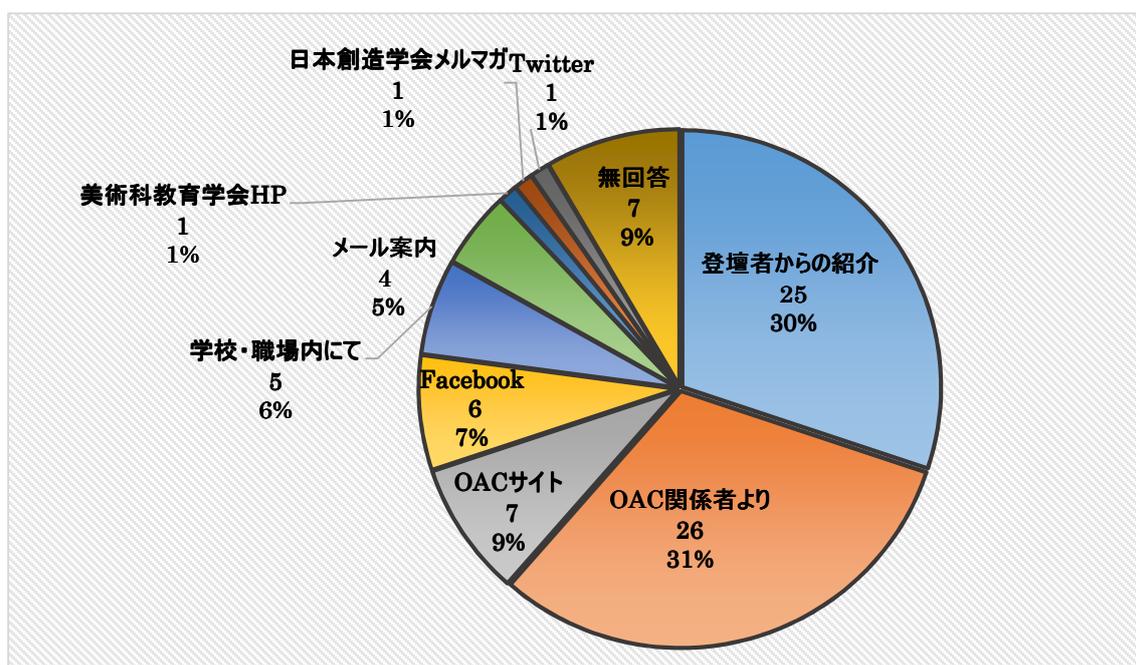
産学官連携による教育シンポジウム

「自ら考えてものを創り出すチカラ＝日本の未来を創るチカラ」アンケート

参加者：130名

アンケート回収数：83（回収率：63.8%）

1. この会をどこでお知りになりましたか？



2. 開催時期について

80名が適当と回答。3名の方より意見があり、

- 3月初旬（専門学校職員）
- 4月頃（企業関係者）
- 8月または3連休の1日目など（中学教員）

3. 今回の教育シンポジウムに参加された理由は

【 学校関係者 】

- 教育とデザインの今後の指針を得たかったので
- 今回のテーマが自分の研究している内容と近いため
- 常日頃考え悩んでいるテーマだから
- 企業が何を考えているのか知りたかったので
- 学校以外の様々な方のお話を聞き、学びたかったので
- 大変貴重な機会だと思ったので（大学生）
- 教育機関以外の分野からも意見を聴いてみたいと思い（大学生）
- 教育界の中の閉じた世界で過去の延長上に研究を進めては駄目だと思い
- 講演者の方々およびテーマに惹かれ
- 業務に役立つと思い
- 自分のスキルアップのため
- 学校でも「ものづくり」の大切さをどのように伝えていくべきか参考にしたい
- 初等教育の創造力教育に興味があり
- 保育の現場でいろいろと考えたいので
- 昨年も参加。今回どのような展開になるか知りたく今回も
- 美術教育を産学官の視点から捉える新規性
- 就職支援の仕事に従事しているがひとつの決まった型にはめられていく学生の就職活動と会社に対して疑問を感じていた
- 学校現場において生徒たちの自主性がない。学ぶ意欲を感じられない。受験のための勉強になっている。学校が社会とつながっていない。教員も学校から出て情報を得る必要を感じていた
- 教職課程を履修している関係で、三澤先生のメソッドを学びたく
- 大学のグローバル教育のあり方について参考にしたい
- 見聞を広め、職場に持ち帰る目的にて
- 2016年4月から中学教師となる身にて、少しでも美術教育に関しての意見に触れておきたかった
- 昨年も参加。継続させるべきだと考えていたので
- 美術教員を目指している（大学生）
- 造形教育と創造について興味を持ち研究している
- 産学官の情報交換に興味を持って
- 社会が望む芸術・美術・デザインに関する能力、人材とはいかなるものか探りたく
- 昨年も参加。前回は面白かった
- 今後の美術教育の参考にしたい
- ものを創り出すチカラに関して様々な視点からみてみたい（大学生）
- 美大で学んでいて、これから社会に出るにあたり有意義な会だとおもったので（大学生）
- 今後の教育の方向性についてキーパーソンの鈴木寛氏のお話をぜひ伺いたくて

今回の教育シンポジウムに参加された理由は

【 企業関係者 】

- 産学官からの視点と美術教育への興味から
- 芸術を取り巻く現状を知りたかったので
- クリエイターの採用、教育を行う者として勉強したく
- 美術もそうだが、人の活力や生きる力が弱まっているように思い、何かのきっかけにならないかと思い参加（クリエイター）
- デザイン教育に日頃から危機感を抱いていたので（デザイン団体）
- 美術教育について学びたく
- テーマに興味を持ったので
- これからの広告のあり方について学びたかった
- 昨年も参加。重要な課題だと思っているので
- 創造性をもつ子どもたちの教育のあり方を「官」だけではなく「産学」に観点からもうかがえる斬新な機会と感じたので
- 社内の人材育成にヒントがあればと思い
- 「自ら考えてものを創り出すチカラ」という言葉が気になって
- 「教育」と「新規事業＝新しいものを創る」がビジネス上のテーマで学べると考えたので
- クリエイティブ人材育成とクリエイティブ業界の現状についての情報収集のため
- 人材育成について様々な視点の話から“気づき”を得たいと感じ
- 自動車業界関係者にとって大切な場と認識しているため
- 産から学へのアプローチをするための人脈づくりを期待。どのようにコンタクトすればよいか判らなかつたので
- 企業が出来ることのヒントを探りたく

4. 凸版印刷 足立直樹氏の講演について

【 学校関係者 】

- 会社として素晴らしい社会貢献をされていることに感動。読書により想像力、考える力、そして脳が成長するということも本当に大切なことだと思いました
- 今回のテーマに関わる部分が少なかつた印象です
- 会社のお話よりも、足立さん個人のお話が面白かつた
- 印刷博物館、トッパンホールの取組みに興味を持った。足立会長ご自身のお話をもう少し伺いたかつた
- 後半の、教育に関連したお話をもう少し聞きたかつた
- 足立さんの経験談に感銘を受けた
- 印刷博物館の印刷工房でのワークショップに興味があつた。以前ギャラリーに勤めていた際「印刷解体」というタイトルでワークショップや「字母」を販売する企画を行つた。手で触れて、言語を視覚化することにリアリティを感じるのが若い世代の特徴の一つだと再認識した
- 「創造力」を育むために企業ともしっかりと共働していくことが今後出来そうな気がした
- 具体的なアートについてのお話を知ることができた
- 印刷術は美術なり、が印象的であつた
- 改めて印刷の果たす役割の大きさに気付いた
- 取り組んでいるメセナ活動とデジタルアーカイブ事業に興味深かつた。近年、私設の優良な博物館に後継者問題や予算が不足しているなどのケースがあり、今後の存続を考えると、教育効果につながつたり、教材になり得る

- ものは今のうちにアーカイブ化できるとよいと思いました(オルゴール博物館、唐澤博物館等)
- 「製品ではなく作品づくり」、「印刷術は美術なり」等、企業トップの方に企業コンセプトをお聞きできたのはとても興味深かった。また、若いうちに自分に投資し、脳をつくるために五感で読書する、まとめる、というアドバイスも大変ためになりました。具体的な学校教育支援、家庭教育支援、新人研修などの一貫性に感銘を受けた。
 - 「製品」ではなく「作品」をお届けしているという考え方が素敵でした
 - 「作品づくり」という考えを基本にサービスを提供していく姿勢の重要性にインパクトがあった
 - 製品を作品と考え、消費者の元に届けるのは、製品は消費者の満足のために作るが、作品は作り手を満足させる目的も含まれる。自他がより満たされることは大事だと感じた
 - 「読書画コンクール」とてもよいと思いました。幼児にさせてみます。
 - 印刷物に対する特別な思い入れ、愛情を感じ胸が熱くなりました。私も本が捨てられず、本の匂い、紙の肌触り、ページをめくる音が大好きです。でもこんなことも・・・先日電子書籍で読んだ本が気に入り、紙の書籍で購入。より愛着がわいてきました。
 - 「彩る知と技」にも感銘
 - 「印刷術は美術なり」と認識している教職員、学生は実は少ないのではないかと思った
 - ご紹介のあった「脳を創る読書」をぜひ読んでみたい
(参考)

http://booklog.kinokuniya.co.jp/staff/archives/2012/03/post_33.html

- 印刷事業の幅広さに驚いた。読書ノートに自身の考えも書き残しておくという手法は、自分の思考の流れなども残せて面白そうである。ぜひ真似したい。
- 「トイレは怖くないよ」のポスターを近隣の小学校との授業でつくったお話は、さらっとお話されていたがすごいことだと思った
- 学校教育以外の場での可能性を感じた。
- 企業メセナの活動を拝見し、ぜひ一度訪問したいと思った

凸版印刷 足立直樹氏の講演について

【 企業関係者 】

- 文化事業、社会貢献について自社で出来ることはないかと考えさせられた
- 文化に関する取り組みを知ることができ、勉強になった
- 印刷の過去未来、読書の大切さ、そして印刷博物館はイイですね！
- 「印刷術は美術なり」創業者の熱い想いが伝わった
- ご本人の考え方に興味を持った。
- 利益を教育や文化に投資しているのは素晴らしい。さすが 100 年以上続く企業だと思いました。
- 社業の変革進化をテーマの視点で語っていただき良かった。
- 社会的教育的な取り組みに感銘。もっと教育関連のお話を伺いたかった。
- 印刷業界の現状と自己投資の重要性について勉強になった
- 若手社員を印刷博物館に連れて行きたい
- 若い人へのメッセージをもっと聴きたかった

- 元凸版社員ですが、新入社員時代に足立さんは事業部長で、個人的に最初からシャンとさせられました。
- 「製品ではなく作品」の概念は、仕事は相手のために行うことが伝わってきた。
- 読書感想画は面白い試みだと思いました
- 「専門以外の知識も身に着ける」。点と点は結びついて、いつ線になるかわからないが点の数が多いほど結びつくより強度なものが生まれると感じた
- 子どもたちに体験学習の場を提供している取り組みに感銘。
- 意識下で何がどう育まれていくのかという話は、とても面白かった。美術の何が具体的に意味のあるものなのかということは言葉にするのが難しいですが、専門的ではなくとも今日のよう な話を知っていることは重要なことと感じた
- 実体験の重要性は芸術教育そのものだと感じた
- 学生たちの実体験を減らしているのは学校を含め、周りの大人たちによるのではと感じた。サービスという名目で、自己満足であれこれと「やってあげる」ことは、学生にとって本当によいことなのかと考えさせられた
- 新たな考え方のキッカケを与えてもらえました
- 教育を受けるうえで働く心理を理解するのは、教員には必要なことだと感じた
- 脳科学の分野を学ぶことは新たな発見があり、現状の閉塞感を打破できるのではないかと感じ、分野に囚われることなく学びたいと思った。アプローチとして素晴らしいと思った。
- 他者とともに、よりよく生きる力を養うために経験がとても重要だと認識しました。
- 美術は必要のない教科だと口にする生徒が多くて困っています。社会的にも感じます。本日、脳の発達においても必要性を知ることができて良かった。書籍も読ませていただきます。
- 「アインシュタインの逆オメガ 脳の進化から教育を考える」拝読したいと感じました。(参考)

5. (株)日立製作所 小泉英明氏の講演について

【 学校関係者 】

- 脳科学と教育との関係についてとても興味深かった。ぜひもっと伺いたいです。
- 快・不快と情動のお話はたくさんの人に聞いてほしいと思った
- 言葉が使えると未来をつくれる。その言葉にものすごい説得力を感じた
- 芸術教育の重要性を再認識した
- もっと聴きたかった
- 創造的思考の脳科学としてのメカニズムがとてもわかりやすく理解できた
- 意識下が重要ということを理解した
- 講演最後の芸術科目の重要性に関して詳しく聞きたいと思った
- 創造性への教育に至る貴重なヒントを得られた
- 最新の脳科学の知見による意識下の重要性について、今後も考えていきたい
- 芸術教育の必要性が脳科学で裏打ちされたように感じた
- 知識やスキルなどの知育ではなく、生きるための「パッション、ひらめき、やる気、想い」など感性を司る部分は脳の(古い皮質)にあること、意識下の部分を育むことの重要性、未来に対しての働きかけは言語を扱える人間のみであるというお話など、大変興味深く拝聴しました。

<http://hon.bunshun.jp/articles/-/2941>

- 脳科学的な見地からいっても芸術科目が重要だということは教育現場にいる身としてもありがたい
- 子どもたちの「意識下」のところを育むことが大切という言葉が印象的
- 人が地球上でやるべきことが見えたように思えた
- 小泉さんが計測・分析科学から脳科学、教育分野と専門性を進めていった経緯や、そのための学び方についてもお伺いしたかった
- 保育園、幼稚園や小学校低学年時代の図画工作の時間の重要性は現場でも感じる。身体的な脳科学の分野からもっと教えてもらえると有り難い。だが、身体的な表現活動を充分に行える先生も減ってきている。図工の時間を戻してほしい。
- これから教師になる身として、生徒の発達段階についてよく知りたいと思った。
- 発達＝進化等々、脳科学からの教育へのアプローチに感銘した
- 人の活力のメカニズムを理論的に学ぶことができました。
- 脳科学の視点から見た芸術の重要性、面白かった
- 見えない部分を育てる具体的な話をもっと聴きたかった
- 意識下の重要性は認識できたが、それと教育(美術)との結びつきについて、次回は聴きたい
- 意識下の重要性について、学生たちにも孫のママにも(娘)伝えたいと思った
- 人間だから出来ること。今やるべきこと⇒考えること、創造することと感じた
- 本買います
- 報酬系から行動指令系に移っていく話が非常に実体験として理解できた。「できた感」や周りから認められることが次の行動を起こすきっかけになるので、周りに対して承認していくことを行っています。
- 快・報酬から人間のモチベーションが生まれ、未来を考えることが出来るという概念はよく理解できた。一方で、実際のコミュニケーションや社会制度、教育においてどのように活かされるべきなのかまたお聞きしたい
- 「意識下」の重要性は様々な問題に対しての気付きになりました。
- 無意識の中に創造性がある。創造性を育成することが人間形成に大変重要だと感じた
- 脳科学から考えるデザインは新しいと思った。体験、知識がデザインを考えるには大切である。
- 「やる気」の科学的な考察が勉強になった

㈱日立製作所 小泉英明氏の講演について

【 企業関係者 】

- 脳の構造から意識上、意識下まで興味深く拝聴。意欲、情熱は人為的につくることはできないでしょうか？人為的につくるという時点で、もはや意欲、情熱ではないのですが、意欲的、情熱的な人材育成をするためにはどのような環境をつくれればよいのでしょうか。
- ユーザー行動も脳科学的なアプローチで新しい考え方が出来るのではと感じました。ぜひ現場でも科学的なアプローチを学ぶべきと思いました。

6. 武蔵野美術大学 三澤一実氏の講演 について

【 学校関係者 】

- 美術教育を取り巻く環境など、あらためて考えさせられた
- 小中学校でのワークショップの実例が良かった
- リアルな問題提起でした。もっとお聴きしたかった。
- 美術、芸術分野に関わる者として意識を共有したいと思う
- 生徒の自己抑制力を外す展開を美術の授業に取り入れたいと思った
- 美術教育の課題を明確に示していただいた
- 企業や文部科学省からも美術教育を応援していただけるよう授業内容をしっかりつくって示していく必要がある
- 子どもたちに必要な学びの場を如何に提供・提案できるかあらためて考えさせられた
- 知らずにマニュアル化された自分をあらためて感じた
- 中学の美術教育の困難な状況が伝わったのと同時に、それを突破しようとする取り組みに感銘を受けた
- 学生の主体性、自発性を引き出す工夫について刺激を受けた
- 美術科目の教員体制の課題など具体的にご教示いただき感謝。特に学校に美術教科がある意味を再認識した。活動内容にも敬意を表します
- マニュアル型になっている現状のお話に始まり、学校現場での実態など、本来美術教育が担えるはずの世界からかけ離れていることに危機感を感じました。子どもたちがコミュニケーションしたくなるようなモチベーションが育つ感動体験をどう実践できるのか、考えたい
- 一石を投じていただきありがとうございました。現場は正にその通りです。
- 学校教育の現状を知り、何かチカラになりたいと、教職を目指す気持ちが高まりました
- 公立の美術教育の現状が判り、驚きました。もっと注目されてほしいと思いました
- 創造性を伸ばす美術教育の重要性について実感
- 美術が好き、絵が好きだからという理由で美術系の大学・専門学校に入学してくるが、自己規制をした学生が多い気がします
- 教員の抱える課題は自分だけでどうにかできるものか不安ではあるが、自分一人で抱え込まずに学校内の他教科の教員や本日のような勉強会などと連携することが今の自分にある突破口なのかなと感じている
- 非常勤講師に頼っている公立中学校。
- 中学美術の教師ですが(デザイン科出身ですが、デザイン科出身で美術教師は珍しいようです)、美術科はあらためて主体性を育む教科だと確認できました。お話にあったように、中学校教員は忙しすぎて、ブラック企業といってもいいくらい。1日11時間勤務で、採点は土日に行っている。教科以外の仕事が沢山あり、とにかくカラダは休められない。自己啓発のためのセミナー参加など、疲れていて行けない……。といった現状をもっと外に向けて発信してもらいたい。
- わたし個人は授業以外で絵を描いたりすることが好きだったので、中学校時代の美術の授業は本当につまらなかった。あの頃一緒に授業を受けた人はみんな美術が嫌いになったのかなあ。本当はとても大事な時期だったはずなのに。
- 個と社会と創造性、美術教育の可能性、意義をあらためて知りました。

- 美術教育の深刻な問題を知り、将来への不安を強く覚える。それゆえ、美術教育の大切さを思う
- 黒板ジャックや旅するムサビなど、大学生と小学生をアートでつなぎ、互いに成長していく取り組みがとても素晴らしく思いました

武蔵野美術大学 三澤一実氏の講演について

【 企業関係者 】

- 道徳や社会分野の体験的学習を美術を通じて行うことができるのではないかという可能性を感じた。日本の「正解を求める文化」を壊すことができるのは、芸術なのかもしれない
- 中学校教諭を取り巻く環境の厳しさを理解できた
- ものづくりのワークショップを最近開催しているが、「作ること＝楽しい」を通して、ものづくりの世界に進む人を増やしていきたいとあらためて思った
- 自己を発信する力、人の意見を受け入れ考える力、人とともに生きる力が更に必要とされる社会ですが、それを育てる環境がないことに不安を感じた。またそれとは逆に、「旅するムサビ」の活動から子どもたちに可能性を感じた
- 大変ためになった。但し、問題なのはやる気のある子をつぶしにかかる教師が存在していないかどうか
- 小中高校でどのような美術の授業を受けたのか覚えていない。それがつまらなかったのかどうかも覚えていない。しかし創造性を育む教育は人の成長に必要であることは疑う余地がない。
- 昨年の課題がまとめられた講演でした。非常に有意義な活動、提案だと思えます

- 経験に焦点を当てた活動に感動。私も中高校時代に芸術に触れていたら価値観が変わっていたのかもしれない
- 共感する内容だった。教育に限らず仕事における問題点と共通していると感じた
- 創造性を育む授業をもっと考えないといけないと思った
- モチベーションの大切さと可能性を感じた
- 視覚障害者の事例は感動した
- よいプレゼンだった
- 学校や先生を取り巻く環境の厳しさを知り、企業のフォローが可能かなとも感じた
- ムサビの活動、興味深い

7. 文部科学大臣補佐官 鈴木寛氏の講演について

【 学校関係者 】

- 教育改革のまさにリアルタイムな状況についてお話しいただき有り難かった
- 大学入試改革は小中学校にも大きな影響を与えるはずで。小学生の受験もなんとかしたいです
- 政府の方がここまで美術教育に関して熱心に取り組んでいらっしゃることに安心しました。同時にまだまだ道程は長いと痛感しました
- 現場では能力のある職員の数が不足しています。
- アクティブラーニング、期待しています
- 文部科学省関係者の方の話で面白いと感じたのは初めてでした。熱気に勇気づけられました
- 日本の直面している難問がよく理解できた。
- テレビ等の 1500 時間をどうするかといった視点は目から鱗だった

- 自己を表現する力が養われればそれを使えるとは限りません。思想とか文化、個性、経済状況などを理由に弱者を圧する風土があってそれが没個性、不満につながるのではないのでしょうか。そこに格差社会の要因があるような気がします
- 学びの意欲というのは本当に大切です。集中力や子ども自身の学びの展開につながります。学校の勉強の意味がわからない、必要性を感じないと授業に集中出来ず、家でも持て余した時間を勉強に使えない子どももいるでしょうから、難しいですね。
- 新学習指導要綱に向けた取り組みについてお聴きでき、感謝します。美術は自主性を育てるために活用できる教科だと確認
- 芸術分野は 21 世紀の教育のコアになるという言葉には励まされた。ぜひ学習指導要綱に示していただきたく思う
- 評価基準から変えていけばうまくいくと思った
- 国内の教育体制に変革を起こすための視点をいただいた
- 文部科学省は敷居が高いと思っていたが、鈴木寛さんがいることを力強く思います
- 学校教育 800 時間、地域家庭での時間 1500 時間の話が印象に残った。ミスを怖れ、指示を待ち、マニュアルを期待し、そんな子どもたちを救いたいと思った
- 教育と文部行政に長く携われた中で到達された方向性がよくわかりました。教育のあり方の見直しは世界的課題であり、今後行われる教育大臣会議 OECD2030 プロジェクトの行方も気になります
(参考)OECD2030
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/04/21/1355915_05_1.pdf
- 大学入試改革に芸術教育がどのようにかわっていくかもう少し話を聞きたかった
- 芸術アートに携わる私たちにとってとても心強い存在です
- メディアの影響力を再認識
- 文部科学省の政策紹介にとどまらない知見を語られ良かった
- 今後の教育の方向性の概要が見えてきた。本校も探求型の授業を採用しているが、文部科学省の狙う授業内容には未だなっていない。また AO 入試で入学してくる生徒の質は一般入試受験者と比べて今一つの印象。

文部科学大臣補佐官鈴木寛氏の講演について

【 企業関係者 】

- 教育改革に期待
- 入試のマークシート方式が諸悪の根源という考えからの変革に期待
- 「暗記歴史」から「思考歴史」という話は、その通りだと思います。歴史だけでなく暗記主体では駄目で、思考力を養うことに主眼を置く教育であってほしいと思った
- 心強く感じた
- 21 世紀型の教育について希望を感じました
- 受験勉強は社会的な時間のロスだと感じています。更なる活躍と成功を祈念します
- 個性を教育で伸ばすには限界があるかもしれない
- 明るい気分になれた
- 不確実性の加速する時代に、子どもも含めた一人ひとりの「自発力」をどう伸ばしていくのか、まずは自分の周りでスタートし、学校、家庭、社会、国が一体となることで日本は今よりもっと世界にとって必要な国になると感じた

- 鈴木さんのおっしゃることがすぐ実現するかはわかりませんが、チカラを入れて取り組んでいる事実が判り、今後も頑張っていたきたいです
- グローバル化が進み英語を身につけても、多種多様な人種のいる会議で発言出来ない方を多く見受けます。それは自己の考え方が出来ていない、発信する能力が乏しいのかと思います
- 現在の取組みの結果が楽しみです。
- 国も変わろうとしているが、国家規模の改革に時間がかかるのは当然なので、学校教育以外の部分で個々人が主体性を持って人間力育成に取り組み、国と産学の相乗効果を育まなければいけないと感じた
- ブレインストーミングでポジティブ思考になっていくというお話が興味深かった
- そもそもどうしたら楽しく、面白く働けるのかということ突き詰めた先に、「面白くなるには“創る立場に”になればいい」ということに気付いたという視点は、非常に新鮮で説得力があるお話でした。カヤックさんのような会社が日本に100社以上増えると潮目も変わるに違いないと思います
- 「人生が面白くなったという人を世の中に増やす」コンセプトで仕事を面白がるあり方に感銘を受けた
- 評価ありきの学校教育というご指摘や、評価のあり方自体もクリエイティブする姿勢は素晴らしいと思う
- ブレインストーミングや地域と連携したカマコンバレーなど、先進的な教育支援企業の姿を拝見したように思います
(参考:カマコンバレー)

8. (株)カヤック 柳澤大輔氏の講演について

【 学校関係者 】

- とても楽しそうな会社で興味をもった
- 神奈川に面白い会社があったんだと知りました。授業でのブレインストーミングのヒントをもらえました
- 大変面白かった。話もシンプルで具体的、実例があるからこそ説得力があった。クリエイティブな視点で問題解決を図っていると感じた
- もっと聴きたかった
- ブレインストーミングに参加することで思考力を作る、組織の体質も変化させ続けていく視点が新鮮だった
- 大変刺激的だった。
- 「面白い会社」と認知されていることへの高い意識に強い印象を受けた
- ブレインストーミング、保育の場でもできるかもしれない
- ブレインストーミングは数多くアイデアを出すことが大事。学校でも取り入れたい
- 評価の観点が動機づけに繋がるというお話が教育現場でも大変参考になると感じた
- つくる立場になると面白くなる。1年目から社員をリーダーにしてしまうというお話は体験上わかります。面白い、面白く感じるにはすごく重要なことだと思います
- ブレインストーミングで生まれる創造思考についてもっと事例を聴きたかった
- 面白く働くという考え方に共感。社会全体がそうなっていくと素晴らしいですね
- 講演は一番短く、でも一番現実的で様々なヒントをいただきました。もっとお話を伺いたいです

㈱カヤック 柳澤大輔氏の講演について

【 企業関係者 】

- 従来の企業価値観を転換させる会社でなければ世の中を変革させることもできないと実感した。小中学生にとって身近なブレインストーミング、非常に興味深い
- 「面白く働く」という視点から、さまざまな制度まで落とし込み、実施されておられ、早速自分の組織でも取り入れてみたいと思った
- 生み出すことの本質を考えることができました
- 確かな案を出すために情報素材を多く得たくなりますが、それを越えた案こそが驚きや面白さを生み出すのだと思いました。固定観念などに囚われないあり方が必要ですね
- 実践的な内容で大変面白かった。もっとお話が聴きたい
- 人とのコミュニケーションをビジネス、教育に役立てる手法は未来的だと感じた
- う～ん、面白い！毎日、毎日プレストやるぞ！と決めました
- 人間的な魅力も感じました
- プレスト＝アイデア取り入れたい
- プレストで建設的に思考することが重要だと気付かされました。今抱えている課題から取り入れてみたいと思います
- 発想の柔らかさとその実行力に脱帽です
- つくる立場になると面白いことを考え、積極的になるという視点は、自社でも採用したいと思いました
- たいへん「面白い」組織のあり方に目から鱗でした
- 楽しく、面白く働くことのパワーがよくわかりました。「人生が面白くなったという人を増やす」いい言葉です

- ブレインストーミングの見方が変わりました。たいへん面白く、15分では少なすぎ。またぜひお話をうかがいたい
- 柳澤さんがトヨタのような大企業で人材教育に関われたら、と考えるとワクワクします

9. トヨタ自動車㈱ 菅原重昭氏に講演について

【 学校関係者 】

- 製品づくりの前にある人間づくり。現状をみつづ、これからの生活についてのアイデアをいただきました
- 日本のものづくりの現場からもっと発信していただけたらと思います
- 「人間力＝自発力」にとっても共感した
- 創造性とプロ意識との両立の難しさを感じた
- 人材教育の必要性を痛切に感じました
- 産業界の考える人材育成がわかりました。教育界ももう一度足元を見直すべきだと感じた
- 企業の考え方、ノウハウは学校とはまた違ったシステムがあるのだと感じた
- 自発的になれない人間が多いというお話は自分の身にも当てはまると感じた。子どもが目標を見つけられるように、大人や社会団体が環境を整え、その中で子供が自発性を身につけられればと思う（大学生）
- 自分でものをつくること。センスと人間力の必要性を感じた。自発力が無ければクリエイティブなものはいらないし、クリエイティブな人間にもなれない（大学生）
- 中学校のキャリア教育で「人生観＋職業観」を持たせることが大切と考えている私には重要な学びでした
- 国策として創造立国を望む声に賛成
- 創造する前提に人間力の向上が不可欠

- 思春期の活動がその後の人生につながるはずだと思いますが、ほとんどの場合「受験でそれどころではない。まず進路が決まったら」そんな世の中かもしれない
- 自発性を伸ばすためのヒントをいただいた
- 憧れに見える化、自己実現と実利の直結、すべてに感銘を受けました。またそれに向けて子どもたちが努力しようと思うのは一番教育に近いのだろうなと思いました
- 共感する内容がたくさんありました
- ワクワクするようなコンセプトムービーに未来を感じました
- 子どもが楽しんでいるのではなく、楽をさせている社会の問題に気付きました
- 「思春期こそ本気の出発」に共感
- 思春期からの本気について、最近高校生がなかなか進路を決められないということを物語っている
- 自動車のデザインのみならず、自動車を媒介とした未来創造の集団がトヨタなのかと感じました
- 産学官を連携させ、推進させる役目の人間教育も必要
- デザイン界はスポーツ界に学べ！という提言は興味深い
- 前向き思考、展開力、共鳴力、自発力を持った人間力が重要。そのための人材育成を裾野から取り組んでいる中で見えた、創造立国に向けて自発力不足の課題、スイッチづくりなど共感しました
- いまの教育の現状に企業としても本気で危機感を抱いていることがわかった
- 人材育成の課題、国や文化によるクリエイティブの特徴や傾向、違いに関しても伺いたいと思った
- 学校の進路指導は目先の学校選択になってしまうくらいがある。企業が見ている未来に関して生徒が直接触れる機会が必要なのだろう。また、教員の情報収集力も必要だと感じた
- 社会の過保護化が子どもの体験、経験の機会を少なくしていると私も思います。大きな三輪車の喩は言い当てていると思いました
- 近未来のクルマがカッコよく、ほしい（大学生）

トヨタ自動車㈱ 菅原重昭氏に講演について

【 企業関係者 】

- 「人間力」これが成熟した社会において、人間が人間としてクリエイションを行う上で最も重要な要素であると思えた
- 課題と結論がロジカルでわかりやすかった
- 「自発力」を企業が求めるのに対し、求職者とのギャップを感じる。どうやったら「自発力」を養えるのかが課題となっています
- さすがトヨタ、参考になりました
- デザイン力×人間力＝デザイナー。納得です
- トヨタの論理的で明快なデザイン教育のビジョンがよくわかった。教育への提言も強さを感じた。スポーツ界を学べというのも共感できた
- だって学校が、だって会社が・・・といって「こうしたい！」ができない人たちを嘆いていてもしょうがなく、ではどうすれば前向きで自発的に動き出す人になれるかを考える！これはわれわれ大人たちの「自発性」も問われているのだと思い、考えさせられました
- 思春期に職業にフォーカスすることは「何のために勉強するのか」や大学受験が目的にならず、未来が開けると思った。それと同時に何度でも挑戦させてくれる社会が必要と感じた

- 未来を創っている印象を受けた。クルマというサービスをつくる点から逆算された人材育成に関する意見はシンプルでわかりやすかった。ここでも結局は「自発性」・「情熱」という部分の重要性が出てきたが、ではどうやって身につけさせるのかが気になった
- 中高生は直接顧客ではないが、現在のクルマ離れに危機感を持ち、若者の人材育成にも取り組んでいる姿勢は業界あげての課題なのだろう。しかし、そればかりでなく実際に取り組んでみて出てきた課題が「自発性」の部分なのかもしれない
- 現場の話はいつ聞いてもワクワクさせられる

次頁、全体ディスカッションに続く

10. 全体ディスカッションについての意見・感想

【 学校関係者 】

- 教育方法を変えるために、ぜひ社会全体にも聴いてほしい内容でした
- 大学入試改革で美大・芸大の扱いはどうなるのか？より良い美術の授業をと考えてやってみても、学校で学ぶ以上の課題やデッサン等の実技テクニックで選考される美大自体が創造性を壊している部分はないか
- 塾教育の直線型指導に負けないような大学入試改革を期待
- 受験無しで大学に入った人がノビノビしている話が印象的
- 学校教育で人間力のある人材をどう育てべきか今後の課題
- 高校の美術は教員が美大で学んだことを再生している感がある
- 教員は企業の話聞いて社会の先を見ようとする好奇心が必要だと感じた
- 皆さんの「乳幼児期」に対する教育のあり方について聞きたかった
- 小泉先生の「低学年が大切」に共感しました。講演者一人ひとりのお話は面白かったですが、人数が多すぎたかもしれません
- パネラーの数が多すぎたかな
- もっとディスカッションをしてもらいたかった
- 聴いていたこちらも、もっと発言したかった
- 創り出すチカラということで、発想に関する質問を脳の発達段階等も含めて聞きたかったが時間切れで残念。質疑応答の時間を増やしていただきたい
- 人間力を高めることについて様々な立場から話を聞くことができた
- 議論が同じ方向性を向いていて、これから目指すべき視点が得られた
- 作っている場を見せる、つくることを実感させる、作品に感動する、伝える・・・そんな“場”自発性を生み出す“場”が必要、それをつくっていくのがわれわれ大人の役目
- 一流は大学に行かない、三流が行くなどの会話に大学の多様性が必要だと感じた
- 意識下を育むこと、乳幼児期の重要性のこと、その時代にしかできない教育があるともっと真剣に考えるべきと再認識できた
- 子どもの声が聞こえる地域教育、家庭教育の必要性
- 過保護な環境過ぎるのではないかと指摘には、共感できる
- 学校と民間企業の歩み寄りをもっと進めるべき
- 北海道の先生と鈴木寛さんのやりとりが力強かった
- 「主体性」＝「軸」をもった人材は魅力的
- 美術ファンをつくること。美術の授業が子どもの居場所になること、一緒に悩む機会を増やすこと。心に留めたい
- パネリスト全員の意見に共通点を感じられ、よかった
- パネリストの方それぞれで視点は違っても今日のように交流していくことは必要だと感じました。一方で、自発性・主体性・人間力のような共通なキーワードがあり、美術や芸術に限らず必要な考え方を改めて感じました
- 主体性・意欲(自ら考えてつくりだすチカラ)を育むには、受験制度の問題や、学校教員の置かれている現状、家庭環境など様々な要因があると思うが、自ら行動する機会やそれを評価するシステムが必要だと感じた。カヤックのプレストやトヨタの人材育成などの取り組みは良いと感じた。そういう機会が社会全体で生まれていくべきだと思う

- 鈴木寛さんの、子どもたちの居場所をつくるために戦うフォローをするという力強い声を聞いたことはありがたかった
- 学童保育、部活動などの時間帯を社会全体でどう設計していくかが、大きなポイントであると感じました
- スポーツの例で、プロなどのトップと少年サッカーや野球などの裾野は二極対立ではなく、裾野(ファンや憧れ)づくり。
- 芸術は体験を通してでない伝わらない
- 保護者の理解をどう求めるか
- 教育と企業、そして国のコラボレーションは意義があります。企業が理念やモラルをもって参加すれば実現は近づくのではないのでしょうか。
- スポーツの事例はわかりやすく、美術もJリーグのように憧れるようになればとも思いました
- 司会の田中さんのハートが素晴らしい

全体ディスカッションについての意見・感想

【 企業関係者 】

- 産学官で対等に話すことで変革が生まれることを感じられる時間だった。登壇者同士のやり取りももっと聴きたかった
- 時間が短くて残念！司会の田中さんの進行、まとめ方が達者でよかった
- 柳澤さんのような方を増やして、一問一答ではなく対話してもらうのもよいかと思いました
- 多様で多彩な講演、パネリストの方々のお話は明日から活かせるものばかりでした
- あらためて一列に並ぶと、すごいメンバーだなと感じました
- 日本の教育、日本の原点を感じた
- 活発でよかった
- 元気をもらえました
- 人間力の強化はわかるものの、企業では指示に従わないと評価が下げられてしまう。社会全体が変わらないと自主性も育ちにくいのかもしれません。教育改革の難しさも感じました

11. 今回のシンポジウムの感想・意見・要望

【 学校関係者 】

- 今後もぜひこのような機会をお願いします。
また伺いたいです
- 次回は大学生、中高校生などの当事者も参加した会にできるとよいと思いました
- また参加します
- 様々な分野の方の意見が聴けて参考になった
- ぜひ第三回を！ディスカッションはもっと時間をかけて。パネリストは3～4人でいいのでは。メディアの方にも見てほしいですね
- 今回いよいよ「未来を創り出すチカラ」について日本全体で認識し、それを実現する具体策を考えるステージに入ったと感じます。三回目の次回は、ぜひその具体的アクションについての意見交換を期待します
- 分野の違う方々で、どう話がリンクするのか疑問でしたが、根本的には今回のテーマに関する問題視や出てきたキーワードなど共通していました。今後はそれぞれの解決策や新たな考え方に発展していきそうだと思い、参加出来てよかったです
- この会に参加していない人をどう巻き込むのが重要だし、難しいと感じました
- とてもたくさんのが学べました。学校にいと外の風が全くといってよいほど入ってこないの、本当に参加してよかったです。しかし、参加者名簿を見せていただくと私の県からはたった二人の参加。ネット上で昨年の様子を見て、これは是非参加すべきと思ったのですが、もっと沢山の中学校美術教員が参加してもらえるように宣伝し、参加出来たら教師側の意識の変革も出来るのではと思いました
- こんな意義深いシンポジウムは教員を養成している美術科のある大学にもっと広報させるとよりよい運動になるのではないのでしょうか。
- 昨年の第一回よりパワーアップしています。
今後も更なる発展を期待します
- ぜひ今後も継続を！
- 大変勉強になりました。一人でないことを実感できました
- 各講演者の意見は一貫性がありました。「自発性」を見せる場があるか、大人が学生の見せる自発性をスルーしていないか、小さいことでも見て、反応してやるのが大切だと感じました(過保護にならず、甘やかさず)。
- 大変勉強になり、励まされました。
- 芸術と社会のつながりについて、深く理解することができるきっかけとなりました
- 教育現場における芸術の位置づけの大切さをあらためて実感できました。どのように幼児に伝えていくべきかが今後の課題になりました
- 「大人の本気」大事だと思った
- 創造力とコンピュータ、SNS の関係、影響についてテーマにしては
- 人を育てるのに必要なものを考えるよい機会となりました。第三弾を期待しています。
- 産学連携の実例を伺える会があると個人的には勉強になります
- 初参加で、産学官連携の成功例、失敗例などが聴けるのかと思っていました
- もう少しテーマを絞ったら「連携」が実質化するように思えた
- 素晴らしい企画だと思った。参加出来てよかった。日本広告制作協会で行前授業などを行っているとの話もあったが、福井まで来てくれるのでしょうか？

- 今後は「人間力」に踏み込んだ、発達に関する専門的な意見を聴いてみたい
- この熱さが本当に広がっていけば、今後の企画も楽しみにしています
- 学生ももっと参加するように告知してほしいです

今回のシンポジウムの感想・意見・要望

【 企業関係者 】

- 講演者の構成がよかった。まだまだ課題、問題の提起が主かもしれませんが、産学官がまずは課題を共通認識することが大切だと思います。
- せっかくいろいろな方が参加しているので、交流会も検討してほしい
- いろいろなお話を聴けて良かったのですが、講演者の人数を4人くらいにしてディスカッションを厚くしてほしい
- 初参加でしたが大変勉強になりました
- 企業としてモチベーションをいかに結果や評価につなげるか、仕事の中で考えていきたい
- 参加するまで時間が長すぎるのでは？と思っていたのですが、あっという間の5時間でした。自ら学ぼうとする意欲の大切さをあらためて感じました
- 大変意義深いテーマなので今後も継続してほしい
- 古い考えや教育で育った方々を巻き込むのが難しいし、「母親」たちの過保護な部分も難しいとは思いますが、今回お話を聴いて少し救われた気分になりました
- 人材育成のヒントは得られた
- 現在企業に所属しながら大学院に通っているのは前回のこの会がキッカケ。また今回も、学生として学んでいる部分と重なっており有意義だった
- 定期的な開催を希望します
- 前回に引き続き有意義な時間だった。教育現場からもっと参加してほしい。そして、保育園や幼稚園、そして小学校低学年の子どもを持つ親の世代も。
- 「個を認める」ことは自主性やエネルギーになり、美術教育やつくることは「個が認められる」きっかけになりうると感じました
- 今後もこのような機会があれば参加したい
- 様々な分野の専門的な見識を得て、現在取り組んでいる人材採用、研修、および所属企業の組織改善に活かしていこうと思いました
- 子どもたちの創造力を育もうとしたとき、入試には直結しないアート分野こそが人間力の醸成に不可欠ではないかと実感できる講演でした。ぜひ次回も参加したいと思います。ありがとうございました